

■視聴覚機材・教材の貸し出し(生涯学習センター)

C. 社会教育教材

1/6ページ

番 号	題 名 ・ 対 象	上映時間 色 別	内 容
C 1	右 む い て 左 一 凶 器 一 (小～一般)	30分 白黒	茂夫が学校で野球の練習中、怪我をする。担任の酒田先生は、すぐ近くの病院で手当をして、自分の車で小泉家まで送っていく。かえりに、信号を無視して暴走してきた車に追突されて歩道にのりあげ、子どもを轢いてしまった。先生はまったく罪がない。しかし先生の悩みは深刻だ。ついに先生は静養のために、故郷に帰る決意をする。(交通事故がいかにか悲惨な結果をもたらすか)
C 2	あなたは聞き上手? (一般)	28分 白黒	「聞」ことは最も多く使われている。 (1)聞き手の態度と期待効果(2)聞き方による内容の変化(3)聞き方と西橋本関係の三点について、豊富な実験例を活用し、正しい「聞き方」を示す。
C 3	夫・職業・家庭 (一般)	31分 白黒	夫は男であると同時に職業人でもある。彼はよい家庭を築くためにより完全な職業人たらんと努力するが、女は近視眼的で夫に家庭奉仕を求めてやまない。この映画は、この二つの事例を描き分けながら世の成人、特に主婦達に真の男の本分について考えてもらおうとする。
C 4	就 職 の 条 件 (中～一般)	24分 白黒	就職できなかつたらどうしよう。 職業にはどんなものを選んだらいいのだろうか。就職についてのいろいろな心構えや条件など具体的に示す。
C 5	誰でも知っている (中～一般)	24分 白黒	ある中学でおきた就職組と進学組との乱闘事件を通じて人間差別の偏見を考えさせる。
C 6	紺 の 制 服 (中～一般)	50分 白黒	中学を終え、社会の荒波と闘いながらも、しだいに働く喜びを知り、それに誇りをもつようになる若い姉とそれをめぐる姉弟や両親、そして友人との愛情の交流を描いて、ささやかながらも幸福に向って努力する人々の美しさ、尊さに感銘させ、生きること、働くことに対する勇気と希望を高めようとするものである。

番 号	題 名 ・ 対 象	上映時間 色 別	内 容
C 7	ここに道あり (高～一般)	24分 白黒	地方から都会に就職した青年が職場の監督者の適切な指導で、誘惑をしりぞけ、立派に生活していく姿を劇的に描いたもの。
C 8	ある町の親子座談会 (一般)	24分 白黒	下町の小学校の一教師が、生活態度の改善によって児童の不良化の芽をつもうと、子どもたちに日常生活の即興劇を演じさせて、父兄や児童たちの反省を促すなど、理想的な親子座談会の形成に成功して子どもたちの生活指導の実をあげる。
C 9	学校と家庭の間 (高～一般)	33分 白黒	がんこで、わからずやのおやじが原因で非行化した高校生を、学校側のとった適切で賢明な処置が家族ぐるみ立ち直らせた物語。
C 10	その灯は消えない (高～一般)	24分 白黒	幼いときに中耳炎を患い耳のわるくなった子どもが、苦勞しながらも周りの暖かい愛情で高校へ入学するという感動の実話物語。
C 11	語りの伝承は今 —お母さんもお話を— (一般)	33分 カラー	読み聞かせや昔話を語りつぐ活動、絵本づくりを進めるお母さんのグループが増えています。この映画は八王子市で活動しているグループの紹介を通して、親と子のふれあいを深めるために、心豊かな子どもを育てるために心をこめて語りかけていくことがいかに大切であるかを訴えかけています。
C 12	家 族 (中～一般)	33分 白黒	家族という複雑な人間の集団を深く結びつけているものは肉親の愛情である。しかし、その愛情で結ばれているはずの家族同志がややもすると他人以上に冷たい関係に陥る場合がある。家族の人間関係は、単なる本能的な愛情だけで支えられるものでなく、独立した人格の相互理解の上に立つてこそはじめて断ち切りがたい人間的な連帯感が生まれることを主題とする。
C 13	あやまちの中の善意 (一般)	16分 白黒	善意からふとしたあやまちをおかす子どもに対し、親はどう対処したらよいか。子どもの見方、考え方を示唆する。
C 14	子どもは見ている (一般)	20分 白黒	子どもの眼をかりて、大人の社会の利己的のところや、表面的にだけつくろっている対人関係などについて、子供が大人の世界を批判して行く。

番 号	題 名 ・ 対 象	上映時間 色 別	内 容
C 15	自 主 性 —その育て方— (一般)	29分 白黒	学校の先生も、卒業後受け入れる経営者も、一致して今の青少年には自主性が欠けていると言っている。そこで、自主性とはなにか、どこに自主性を失わせる原因があるか、自主的な子供とはどんな子供なのかを描きつつ、自主性の育て方について示唆を与える。
C 16	意思を育てる (一般)	34分 白黒	社会で最も求めている者は、自主性と創造性に富んだ意志の強い人物である。この映画は好評の育て方教育の作品。映画は困難にぶつかったとき、それに耐え、打ち克っていく強い意志はいかにして子供に植えつけられるかを説いていく。
C 17	親と子のきずな (一般)	30分 白黒	親子の信頼の中で、子どもは正しく育つという。しかし、親と子の気持ちが不幸にもちぐはぐになった場合、実際に親はどうすればよいかという問題を、必死で取り組んでいる一家の事例をもとに、親と子の幸せな結ばれ方を具体的に示唆する。
C 18	ゆがんだ愛 (一般般)	24分 白黒	盲愛にひとしく、すべてを子どものいいなりに育てた母親、そのために自分の欲望をおさえることができず非行にはしる子ども。正しい親の愛情とは何か。家庭教育のあり方を正しくえがいたもの。
C 19	うちの子にかぎって (一般)	16分 白黒	三つの家庭を例に、自由と放任をはきちがえて考えている親と、その影響をうけた子どもの態度や生活を描き、自由の本当の意味、子どもの正しいしつけ方を説く。
C 20	親の期待と子の心 (一般)	24分 白黒	親は子どもに期待し、そのために子どもに大きな負担をかけている。親の期待にそうために、ウソまでついて応えようとする子ども、そこまでおいこんだのは、すべて両親の責任であることをえがき、親のあり方をすべてえがいている。
C 21	子 供 心 (一般)	16分 白黒	紙芝居のおじさんがみた子どもの姿を家庭の様子と対比して示し、両親に子どもの要求と心を再確認させる。親は子どもだと思っても子どもは、悩み迷いをもって成長している。子どもに親の不注意が影響する場合が多いので、親は考えなおすべきであることを説く。

番号	題名・対象	上映時間 色別	内容
C 22	勉強ざらい (一般)	20分 白黒	「近頃の子供は勉強嫌いで困る。」という母親の悩みに応え、昆虫取りに夢中になっている子供を持つ家庭を題材に、子供を誰が勉強ざらいにさせているのか、子供は本当に勉強ざらいなのかと問題設定して、子供の興味ということの中から解決の方向をさぐる。
C 23	遊び場のない子どもたち (一般)	32分 白黒	広い野球場はあっても子どもたちは路地で野球をし、ママごと遊びをしている。交通戦争の今日この頃、遊び場のない子どもたちの生活を通して問題を提起する。
C 24	ぐちっぽいお母さん (一般)	22分 白黒	働きつかれた母の姿を見て修学旅行をあきらめ、腹が痛いと言をつくいじらしい子どもの思いやり。母と子の愛情を暖かく描きながら親のなにげないグチが子どもの心にどのような大きな影響を与えるかを強く訴える。
C 25	かあちゃん (一般)	50分 白黒	病いに倒れた夫と二人の娘をかかえ、チンドン屋として働く母親と、それを不満に思う娘とのやりとりの中に生活のきびしさを描く劇映画。
C 26	お父さんは働いている (中～一般)	18分 白黒	働く父親の生活を子どもたちが子どもなりにどう捉えているか、働いている父親のなかにあるいろいろな矛盾や非合理をあばき、この厳しい現実のなかでどうすれば父と子の対話が進められるかを考える。
C 27	父、その愛 (高～一般)	33分 白黒	クラスの問題生徒に注意しようとしたことが争いとなり、逆に大怪我をさせてしまう。どんな場合でも暴力は許されない。また暴力では問題は解決されないということについて、誤った考えを抱いている息子を正しく導こうと努力する父親を描き、意志の疎通を欠いたがために生じた我が子との断層をうめるためには、父親はどうあるべきかという事を示唆しようとする。
C 28	幸福とは何か (高～一般)	33分 白黒	肥大化した消費生活の中にまきこまれ無計画のゆかに将来の不安にあびえる一家と、質素ではあるが計画性とゆとりのある生活の中で幸福をつかんでいる一家を対比させながら、真の幸福とは何かを考えていく。

番 号	題 名 ・ 対 象	上映時間 色 別	内 容
C 29	親の扶養 (高～一般)	33分 白黒	年老いた親の面倒は誰がどのようにみたらよいか……。嫁と姑の確執で家裁の調停を受ける一家の例を描いて、人間関係と法律的な面からの様々な問題点につき、深い感動のうちに、新しい時代における親の扶養のあり方を示唆する。
C 30	うるさいお姑さん (一般)	33分 白黒	姑と嫁の人間関係に解決の視点をどこにおくかは、常に問題となるところです。長い人生を経てきた年寄りの相互扶助的な経験的な生き方と、現代に生きる嫁の合理主義的・実利主義的な生き方をよしとする現実的な生き方との相こくの中で、地域社会における家庭という個の問題を考え、姑と嫁の人間関係にお互いの理解の融和への一つの手がかりを与えようとするものである。
C 31	第三の人生 (一般)	30分 白黒	創造と奉仕の中に喜びを見出し、老後をいきいきと送っている高齢者たちの実際の生活を記録し、精神的健康が肉体的健康の大きな支えとなっていることを訴え、老人の生き方について示唆する。
C 32	ある主婦たちの記録 (一般)	24分 白黒	一家の問題を一家の問題として苦しまず、内職の共同作業を通じてお互いに励まし合い知恵を出し合って生活の合理化をはかっていく婦人グループ……。東京下町にある主婦たちの実話をもとに日本の主婦たちの不屈なたくましさを描いた意欲作。
C 33	婦人学級のすすめ方 (一般)	34分 白黒	館町での婦人学級の開設から運営の様子を追って、婦人学級が定着してゆく姿を描く。
C 34	白鳥 (中～一般)	52分 カラー	町工場を経営する父親は、息子を東大に入れたい。ところが、息子は音楽学校をめざしていた。この親子関係に父親の部落出身であることの悩みをからませ、差別、親離れ、子離れについて考えさせる。
C 35	沈黙の夏 (一般)	72分 カラー	東京の部落差別を正面から見すえたドラマ。一人の女性が自殺をはかる。その原因をさぐると、被差別部落ゆえの結婚差別、さらにそれを助長する「地名総識」（全国の部落の所在地などを記載したリスト）の問題がうかびあがってきた。

番号	題名・対象	上映時間 色別	内容
C 36	故郷の空 (一般)	52分 カラー	他人に言えない悩みを持つ二人の女性が、夫や子供への愛と心の葛藤を通して、信頼の絆を強めていく。差別と偏見の壁を破って人と人とが結びあって、生きることのすばらしさを示唆する。
C 37	おじいちゃんの贈りもの (小～一般)	53分 カラー	東京の下町を舞台に、少し痴呆の始まったおじいちゃんをめぐるさまざまな人間模様を、小学生の女の子の目を通して、家族の生活や地域の人々との関係がどう変わっていったかを描いています。
C 38	仲間たちがいて喜びがある (一般)	30分 カラー	東京の各地で行なわれている公民館活動の実践の中から、公民館の役割とその存在意識を浮き彫りにし、生涯学習の大切さがクローズアップされている今日、公的社会教育施設としての公民館の果たす役割の重要性を訴える。都公連40周年記念映画
C 39	心ふるえてます (中～一般)	31分 カラー	「盗み」という行動で何を求めているのか、それによって得たもの、失ったものは何か。思春期の子どもたちの抑圧された心理状態をつぶさに描き、非行を未然に防ぐには、親が子どもとの間に強いキズナを作り上げていくことが大切だということを訴えます。
C 40	どこかへんだぞ 子どものからだ (一般)	32分 カラー	背筋力や背骨の弱い子、アレルギーの増加、脳や神経系の動きが低下している子・・・など子どもの体が蝕まれているという報告が教師や医師から多数寄せられているという。その原因や子どもの心身の健康を守るためにどうしたらよいかを探ります。
C 41	ガラスの思春期 (中～一般)	53分 カラー	前任校で担任する生徒が自殺した過去を持つ一ノ瀬(松村雄基)は、転任先の中学でもいじめの芽をかぎつけた。しかし、同僚に話しても取り合ってもらえず、生徒にも警戒されてしまう。
C 42	かおるちゃんの 昆虫日記 (小～一般)	35分 カラー	かおるちゃん、小学校2年生から昆虫採集を始め、地元の先生と他市に住む専門の先生の指導を受け、主にチョウとガを追い求めている。それらの昆虫から自然と環境の大切さを学ぶ。